

## 250108\_3学期始業式

みなさんおはようございます。年が新しくなり、年度の締めくくりとなる3学期が始まりました。

この時期、新たな目標を立ててスタートを切った人、目の前の戦いに向けて継続して努力を重ねている人、今から目標を立てようという人、いろいろあると思います。3学期はあっという間に過ぎ去り、すぐに次の年度に入っていきます。年度の最後を整えて締めくくるようにしましょう。

西舞鶴高校では卒業から30年目を迎えた同窓生が1月2日に全クラス合同で同窓会を開く伝統があります。今年は平成5年度卒業生が集まれ、恩師や同級生との再会を楽しまれました。また、翌1月3日には平成元年度卒業生がコロナにより4年遅れで記念同窓会を開催されました。皆さんの保護者の中にも同窓生として参加された方がいらっしやいました。私も来賓として出席し、同窓生の方々に、「みなさんの母校西舞鶴高校は、中学生にとっては憧れ、高校生にとっては青春の舞台、そして同窓生にとっては誇りであり原点です」とお伝えしました。この伝統が地域と同窓生を結びつける絆であることに感謝し、今後も同窓生、地域の方々に良い報告ができるよう、みなさんの活躍に期待しております。

さて、みなさんが取り組んでいる探究活動は、自ら問いを立て、自分なりの答えを求めて試行錯誤する過程で、科学的な思考力や問題解決能力を育むことを目標の一つにしており、探究の手段として、地域や大学と連携し、多様な人々と交流し、自分になかった新たな視点や価値観に触れる機会を設けています。多様な意見に触れる場、異なる分野が交わる場では、従来の考え方を超えた「新しい価値観」が生まれることがあり、その「新しい価値観」は、みなさんの学びを深めるだけでなく、みなさんの将来やこれからの社会を豊かにする可能性を秘めています。この「新しい価値観」を創出するため、私は固定観念（固定概念ではない）を打ち破ること、異なる分野を融合させることの2つが大切だと考えています。

過去の考え方や常識にとらわれず、固定観念を打ち破った例として、今では当たり前の、陸上競技における「クラウチングスタート（スタンディングから）」「背面跳び（はさみ跳び、ベリーロールから）」が考えられます。それらは最初からあったものではありません。また、自転車競技においても、かつては、主に体力や脚力で競い合われていましたが、1980年代以降、選手のスーツやヘルメット、フレームのデザインに至るまで細部を最適化する「エアロダイナミクス」が注目されるようになり、わずかな抵抗の違いが大きなタイム差を生むことが証明されました。みなさんも、考えが凝り固まってしまったとき、固定観念を打ち破ることを意識してください。

また、異なる分野を融合させるためには、いろいろな分野のことを知る必要があります。高校では、文系科目と理系科目といった境目はありますが、文系理系に関係なく幅広く学ぶことが大切です。「異なる分野の融合」について、図書委員会作成の「先生と図書委員のおすすめ本」で、私は宇宙産業、宇宙開発の話を通して触れました。宇宙事業は、かつてはNASA、JAXAといった国の機関や大学による取組でしたが、現在では、スペースXなどの民間企業がロケットを打ち上げ、また、そのロケットには高校生や大学生が作った人工衛星が搭載される、そんな時代となっています。そのような時代において、人工衛星からのデータと、何かを掛け合わせ、融合させることが「新たな価値観」に繋がっています。この融合により、スターリンクといった簡単に利用できる衛星通信システム、人工衛星からのデータを活用した農業や水産業、人工衛星からの画像により世界の石油の貯蔵量を算出して提供するサービスなどが出現しました。異なる分野を混ぜる、または和えることによって「新しい価値観」を生み出す可能性が秘められていることを、常に心の片隅に留めておいてください。

今年の干支は「乙巳（きのとみ）」です。「乙（きのと）」は、日陰でも成長し、しなやかに伸びる草木を表し、「巳（み）」である蛇は脱皮を繰り返して成長していくさまから、復活と再生の象徴として縁起の良い動物とされています。皆さん一人ひとりが力強い生命力と再生力をもって、さらなる成長を遂げる3学期としてほしいと思います。

以上で3学期始業の式辞とします。

令和7年1月8日 京都府立西舞鶴高等学校 校長 田邊 仁司